

ドラッグストアにおける体外検査薬の取扱い状況等について

日本チェーンドラッグストア協会

1. 現在の体外検査薬販売時の指導等について

現在、尿糖・尿蛋白検査薬、妊娠検査薬が OTC 薬としてスイッチ OTC 化されている。主な取組みは次の通り。

- ・尿糖検査薬による糖尿病の早期発見・早期治療につなげるアドバイス
 - 特に陽性反応が出た場合は速やかな受診勧奨を行う。
 - 日常生活上の正しい食事や運動等により血糖値も安定することを、尿糖値を通してアドバイスする。
 - ※）添付資料参照（JACDS 会員企業での取組み）
 - 顧客の健康状態を自宅等で独自にチェックするセルフケア意識を高めるために、POP 等を活用し紹介している。
- ・妊娠検査薬による顧客の不安を除くアドバイス
 - あくまで陽性・陰性反応は目安であることを前提に、早期の受診勧奨につなげる。
 - 検査結果を元に相談に来られる方には、顧客の不安解消など、よき相談相手となる。
 - 受診後、妊娠が確定した場合、ベビーケアアドバイザー認定者（JACDS 認定講座）らが、妊娠・出産・育児等について相談対応している（認定者計 1580 人）。

2. 今後、体外検査薬のスイッチ OTC 化で、どのような取組みが可能か

- ・より積極的な生活習慣病の予防対策への取組みが可能になる
 - 自覚症状を伴わない生活習慣病の早期発見、その他、生活習慣の改善や医薬品による効果の確認が可能になる。
- ・生活の質の改善に向けた取組みが可能になる
 - 一例として、晩婚化と出産年齢の高齢化により、妊娠・出産期が縮小している中、排卵検査薬の活用による妊娠の機会を高めるアドバイスが可能になる。
- ・疾病の早期発見・早期治療に向けた取組みが可能になる
 - 一例として、便潜血検査薬により、消化器系の出血の確認など、疾病の早期発見、早期治療に貢献できる。
- ・感染症の早期発見に向けた取組み
 - 一例として、インフルエンザ検査薬のスイッチ OTC 化により、インフルエンザの疑いが早期に発見され、早期の受診を促しやすくなり、結果として感染拡大の抑制にも貢献できる。
- ・薬剤の影響（副作用）による被害防止に向けた取組み
 - 血中の無機塩類や血球数等を測定することにより、医薬品による副作用等の早期発見に貢献できる。
- ・健康の維持・増進等の自己管理の促進に向けたアドバイスが可能になる
 - 一例として、すでに高尿酸値血症の診断を受けている患者が、自ら尿酸値の自己管理を行うことで、医師や薬剤師と相談しながら食事等の重要性の認識を高めるアドバイスが可能になる。

3. ドラッグストアは体外検査薬のスイッチ OTC 化で何に貢献できるか

- ・セルフメディケーション推進支援に大きく貢献できる
 - 一例として、代表的な生活習慣病である糖尿病領域の検査項目であるヘモグロビン A1c 検査薬のスイッチ化により、食生活をはじめとした生活改善指導が適切に実施でき、現在、日本再興戦略にも盛り込まれているセルフメディケーションの推進にも大きく寄与できる。
- ・国民の健康寿命延伸と医療費の効率的運用に貢献できる
 - 早期発見と早期受診により、生活習慣病の重症化予防に貢献でき、健康寿命の延伸に貢献できる。
 - 検査薬の充実により、地域で最も身近な健康ステーションであるドラッグストアで、地域住民の健康意識を高める様々な動機付けを行う店頭活動ができる。
 - 検査薬の普及で、生産コストの効率化を図り、購入者の経済的負担軽減にも貢献できる。
 - 疾病の早期発見と悪化の防止を可能とし、生活者の健康寿命を延伸させることができる。
 - 国民の健康意識を高め、かつ医療費の抑制と公的医療保険制度の安定的持続に貢献できる。